

令和6年度使用小学校教科用図書  
調査研究結果報告書

# 図画工作



京築教育事務所管内教科用図書調査研究協議会



教科書種目	発 行 者 の		教 科 書 名 (シリーズ)
	番 号	略 称	
図画工作	9	開隆堂	図画工作

観 点		特 徴 及 び 長 所
各教科共通の選定の観点	1 内容の範囲及び程度	<p>ア 「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」に関する3つの目標を基盤において内容が編集されている。</p> <p>イ 各学年の発達段階に適応した内容であり、内容と育てたい力がバランスよく構成されており、段階的に発想や構想を広げていけるよう系統的に題材配列がなされている。</p> <p>ウ 内容及び内容の取扱いに示す事項を不足なく取り上げている。また、学習のめあてにおいて、特に大切にしなければならないことが朱書きで表されており、教師も児童もとらえやすい。</p>
	2 内容に関する配慮事項	<p>ア 各学年の相互間の関連を図り、系統的・発展的な指導ができるようになっている。また、カリキュラムマネジメントの視点で、各題材の下に「あわせて学ぼう」が掲示され、教科横断的な題材構成に配慮している。</p> <p>イ コミュニケーションや言語活動を重視した題材、共同で行うことを意図した題材が多く設定されており、コミュニケーションを図りながら活動し、相互理解が深まるよう配慮されている。</p> <p>ウ 児童自らが課題を見つけ、試行錯誤を繰り返しながら活動できるように、タブレット端末を使って学習内容を動画で確認したり、ワークシートを使って発想や構想を広げたり、学習を振り返ったりすることができるようになっている。また、目次にはその学年の題材一覧が、巻末には一年間の振り返りをするページがあり、主体的に学習できるような工夫もされている。</p> <p>エ カラー・ユニバーサルデザインの観点から、すべての児童に対して教科書の内容が伝わるように、紙面全体に識別しやすい配色や形状、写真の配置などが工夫されている。また、文字は誰にでも分かりやすく、読みやすいようにデザインされたユニバーサルデザインフォントを使用している。</p> <p>オ 安全指導について留意すべき点は、「安全マーク」とともに、写真やイラストで具体的に明示したり、巻末に安全な用具の使い方を載せたり、タブレット端末でも動画で確認したりすることができるように工夫されている。</p> <p>カ 学習指導要領の目標や内容の趣旨を逸脱したり、児童の負担が過重となったりすることがないように配慮されている。</p>
	3 分量	<p>ア 授業時数に見合った、適切な分量となっている。</p> <p>イ 学習指導要領に示されている年間授業時数をふまえ、題材の軽重のバランスが整えられている。</p> <p>ウ どの領域もバランスよく配置され、内容に偏りが無い。</p>
	4 使用上の便宜	<p>ア 資質・能力の3本柱に対応した3つのキャラクター(くふうさん・ひらめきさん・こころさん)が児童の学習を深める支援を行うように記述されている。また、各ページに図版番号がついており、指し示す図版を共有しやすくなっている。</p> <p>イ 「つながる造形」や「みんなのギャラリー」において、発展的な学習内容が区別されている。</p>

	5印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 印刷は鮮明で見やすく字間や行間、字体は適切である。</li> <li>○ 長期間の使用に耐え得る製本となっており、開きやすく見やすい。</li> <li>○ 当該学年以降で扱う漢字全てにふり仮名をつける「総ルビ」となっている。</li> </ul>
教科ごとの選定の観点	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 児童の作品だけでなく、我が国や諸外国の多様な作品が掲載されていたり、各学年で鑑賞作品と児童の活動が関連して扱われていたりすることで、継続して造形的なよさや美しさに関わることができるようになっている。</li> <li>2 用具や材料の知識も、巻末に「学びの資料」として丁寧に示されている。また、ICTコンテンツも充実されており、作品を創造的につくったり表したりすることにつながる工夫がなされている。</li> <li>3 児童が、創造的に発想や構想ができるように、投げかけをすると同時に、「アイデアシート」をコンテンツとして利用できるようにしている。</li> <li>4 材料を選んだり、表現方法を試したりと、児童が主体的に課題を追求する活動を促す内容や、友達と共同して活動する内容、他教科等で活用できる「あわせて学ぼう」を設けている。また、学んだことを生活や社会に生かすことにつながるよう、地域の方と協働して活動したり貢献したりする事例を紹介している。</li> <li>5 全学年に、造形的な見方・考え方、発想力を身に付けていく短時間扱いの「ひらめきショートチャレンジ」が設定されている。</li> <li>6 「発想や構想」と「技能」に関する事項を関連付けて記述してある。題材と関連させて、用具の使い方を巻末「学びの資料」などで紹介している。</li> <li>7 「工作」と「絵や立体」の内容に配当する授業時数は、およそ等しくなっている。</li> <li>8 試行錯誤を繰り返す活動、キャラクターのアドバイス、吹き出しのコメントなどにより、形や色をとらえることとイメージをもつことの関わりに気付くことができるよう工夫されている。</li> <li>9 様々な表現方法や活動のヒント、多様な材料や児童作品などが示されており、個性を生かした活動につながるよう工夫されている。</li> <li>10 〔共通事項〕の「知識」に関する指導にあたっては、その後の学年で繰り返し取り上げる内容構成になっている。また、高学年の鑑賞は、テーマが絞られているので、児童が観点を明確にして作品を見ることができる。</li> <li>11 各学年の巻末に「学びの資料」を設け、学習指導要領に示されたそれぞれの学年で扱うべき用具や材料についてまとめられている。</li> <li>12 共同で取り組む活動や他者を想定した活動が提案されている。活動の中で話し合いの場面が多く取り入れられ、コミュニケーションを促している。</li> <li>13 安全やリサイクルにつながる後片付けについて、配慮すべき点を「あんぜん」「かたづけ」マークと共に、写真やイラストを用いて具体的に例示している。安全指導について留意すべき点は、QRコンテンツで繰り返し視聴し確かめることができるようになっている。</li> </ol>	

教科書種目	発 行 者 の		教 科 書 名 (シリーズ)
	番 号	略 称	
図画工作	1 1 6	日 文	図画工作

観 点		特 徴 及 び 長 所
各教科共通の選定の観点	1 内容の範囲及び程度	<p>ア 教科の目標達成に結びつく内容になっている。全ての題材に教科の目標に基づく「学習のめあて」を設け、資質・能力の三つの柱の育成が実現できるように工夫されている。</p> <p>イ 内容の程度は、各学年の発達段階に適応している。低学年においては幼児教育と、高学年においては中学校との接続ページを設ける等、配慮されている。</p> <p>ウ 内容及び内容の取扱いに示す事項を不足なく取り上げている。</p>
	2 内容に関する配慮事項	<p>ア 各学年の相互間での系統性を図るために、同じ材料や用具に繰り返し関わるができるよう、題材が系統的に設定されている。カリキュラム・マネジメントの視点で、ページ右下に「つながる学び」を設け、他教科や特別活動、SDGs等との関連付けをしている。</p> <p>イ 言語活動の充実を図るための工夫として、対話している情景写真が多数掲載されているとともに、吹き出しの中で作品の紹介、鑑賞の題材で対話の様子等を紹介し、言語活動を促している。</p> <p>ウ 資質・能力の三つの柱に基づいた「めあて」が設定されており、児童自身が主体的に取り組み、問題解決的な学習ができるように配慮されている。また、自分の活動を振り返り深めることができるよう、すべての教材に「ふりかえり」を設定し、下巻には二年間分の振り返りのページを設け、次の学習や次年度の学習に繋げる工夫もされている。</p> <p>エ 個に応じた作品づくりができるように、多様な作品や活動例、材料が紹介されており、児童の発想の幅を狭めず、個々の興味関心に応じて表現したいことを見つけられる工夫がなされている。また、教科書全体を通して日本の伝統文化を含む多様な造形や諸外国の美術作品を紹介している。</p> <p>オ 各題材ページ内に「気をつけよう」「かたづけ」が提示してあり、安全・衛生に配慮する態度を養うことができるよう工夫されている。また、用具の安全な使い方について、動画内で短い言葉を用いたり、マーク(○×)を使ったりして分かりやすく説明されている。</p> <p>カ 発展的な学習内容は、目標や内容の趣旨を逸脱したり、児童の負担過重となったりしないように配慮されている。</p>
	3 分量	<p>ア 全体の分量はやや多めであるが、地域や学校の実態、児童の状況に合わせて題材を選択できるよう豊富な題材が掲載されている。</p> <p>イ 授業時数に照らして題材の内容が、適切に配分されている。</p> <p>ウ どの領域もバランスよく配置され、内容に偏りがない。</p>
	4 使用上の便宜	<p>ア 学習のめあてに対応する情景写真、活動場所や周囲の様子が読み取れる写真、児童の興味や関心を引き出す題材名やリード文、児童の主体的活動を引き出す図示(活動途中の様子や楽しく活動している写真等)や作品の寸法が示された図版等、適切にレイアウトされ、学習が深まるよう工夫されている。</p> <p>イ 発展的な学習内容は、それ以外の内容とは区別されている。</p>

5印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ すべての児童が等しく学べるようにカラーユニバーサルデザインに配慮して編集されている。</li> <li>○ 絵や図、背景は落ち着いた色合いで華美にならないように配慮されている。</li> <li>○ 軽量化した再生紙を使用し、重さへの負担が軽減されている。</li> </ul>
教科ごとの選定の観点	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 「学習のめあて」では3観点を5項目に細分化し、育てたい力をより明確に示すと同時に発想や構想のめあて（A表現）と鑑賞のめあて（B鑑賞）の両方を示し、表現と鑑賞を往還しながら活動できるようになっている。</li> <li>2 キャラクターが造形的な視点から児童にヒントを与えたり、児童の発見を認めたりするなど、知識の習得・活用を助ける工夫がなされている。</li> <li>3 児童が、創造的に発想や構想ができるように、その手がかりとなる多様な情景写真や豊富な参考作品が掲載されている。また、発想や構想に悩む児童のヒントになるコーナー「ひらめきのタネ」を設け、発想や構想の手助けになるヒントが多数掲載されている。</li> <li>4 すべての題材が、つくりだす喜びを味わうことができるように配慮されている。また、他教科等と学びをつなぐ題材や学んだことを生活に生かすことを促す「つながる学び」「広がる図工」が設定されている。</li> <li>5 〔共通事項〕について、教科書全体で取り扱うとともに活動と〔共通事項〕を結び付けられるよう「活動のヒント」「鑑賞のヒント」が示されている。</li> <li>6 「発想や構想」と「技能」に関する事項を関連付けて記述してある。題材と関連させて、使う用具をページの左下に紹介し、巻末には「材料と用具の引き出し」で正しい用具の使い方や日常に生かせる活用法が示されている。</li> <li>7 「工作」と「絵や立体」の内容に相当する授業時数は、およそ等しくなっている。</li> <li>8 試行錯誤を繰り返す活動、キャラクターのアドバイス、吹き出しのコメントなどにより、形や色をとらえることとイメージをもつことに関わりに気付くことができるよう工夫されている。</li> <li>9 様々な表現方法や活動のヒント、多様な材料や作品、活動例が幅広く示されており、個性を生かした活動につながるよう工夫されている。また、基底材の形・材料・大きさ等、多様な参考作品が掲載され、児童が発想を広げて、自分に適した表現方法や材料等を選ぶことができるように配慮されている。</li> <li>10 〔共通事項〕の「知識」に関する指導にあたっては、その後の学年で繰り返し取り上げる内容構成になっている。</li> <li>11 材料や用具においては学年の順序性が十分に留意されている。また、取り扱った学年以降でも繰り返し取り上げることのできる学習内容になっている。</li> <li>12 各題材において、〔共通事項〕に示す事項を視点にして、児童が対話をしている情景写真、作品のコメント、発表の様子等を多数紹介して、言語活動の充実を促している。</li> <li>13 題材ページ内にある「気をつけよう」「かたづけ」に、用具の安全な使い方や材料の扱い方、活動場所の安全を確認することなどが示されている。また、安全指導について留意すべき点は、QRコンテンツで繰り返し視聴し、確かめることができるようになっている。</li> </ol>